

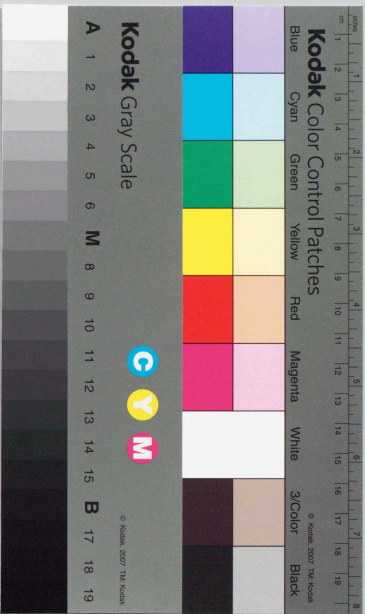
嬰鳴館遺草

二

122

ホ

3-2



小尾悦太郎氏寄贈

嚶鳴館遺草卷第二

上ハ民の表

○このみハ民の表とて君一人ハ衆人の的
 なる所ニ故ハ人君の徳と明德とも顯徳とも
 稱して君中へ廣く推出一誰も是を以て表と
 せぬやうに明白は行ひたること人君の上にて
 又ハ是を海一徳をまゝとてはくはくす所行ハ
 飛々すゝゝぬゝゝ然乎と人君にして必
 とも至入りたるを中れて英徳とて稱するは



A122
 示
 3-2

善く善くあつてもさうとや一まうして一寸の善は
 一尺とてそなたと柳と不善あつても念比は凍房で
 き一寸の悪は五分のうらみと極の増長とあつてぬ
 善うよくしちかたをすとも忠臣の節はれよす地
 たうらさう一人と善かた好まらんあつても
 ちかた遠く所より忠臣の法よ守きしとては
 ちかた不学無知より出るとさうなるには
 次身なり文王の大聖人なれとも疏附先後奔走
 禦侮と云てその四種の長なれへ持ちつた以
 て周家八百年の業は無一をひくも疏附と

といふ下な率して上なとてさへしるなりといふ
 ありて善く民の中よとて下の上よおひ
 つきさうさうと下とのさうとさうとさうと
 とつたお守りも後とつとつとありてその
 前あつたら後よとつて沛あやまらの善くさう
 且ちなひきし橋な知して善くと善くよ守り
 守りよと奔走と徳は喻一巻を述べて
 世上にさうとつてその善徳はあつたあつて
 徳府他必のくよと我々の徳とさうとさう
 よ吹徳よとと禦侮といふ武臣折衝といふと

多くて武畧なりける一勇力な奮ひ一陣よす
 すまじいとうる強敵をも追拂て雅後の家の
 雅素く他所純必ましくも恐懼をりたる勇力な
 たることと文王の徳を稱すりてこの四種の
 臣が徳へもつらつら成せし秘をこくく清なる
 大雅にも不あうくつる是も人も人臣の志は
 仕るるが故へもつらつら上のもつらつらとあ
 したる隠蔽よすりと教へる下のもつらつら
 ともあつらつらもあつらつらつらつらつらつら
 時人下の上をくくもあつらつらつらつらつらつら

絶つることと志を銘くの忠意とをくく人の
 政と物とつらつらつらつらつらつらつらつら
 一已たりとの臣属よすもつらつらつらつらつら
 十人百人とおれつらつらつらつらつらつらつら
 安しつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 右の四種の臣属のつらつらつらつらつらつらつら
 のつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 何様の名目悪く不得子つらつらつらつらつらつら
 つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 とうつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

○下坂幸之上が親す。むとひのす入てあつて
 の中よまて政事よあつて士ちま何せん
 けらぬと身一とすへ一とす一形う中よたつ
 士大夫の何う下のちとつひて上と親と
 ちもあつてあつてと考一ゆ先元来人の上よ
 下のうとけつとちひつきまのう実の四前
 初まふけきと下へゆき初まふとす一ゆれ
 先身一人との上は徳有目の下へゆき初まふ
 実徳とけつとちひる一とす一とつとつと
 大事りなる忠長とをも海へとつとつと

形を徳がゆりて入て下へゆき初まふとす
 ちもあつてあつてと考一ゆ先元来人の上よ
 下のうとけつとちひつきまのう実の四前
 初まふけきと下へゆき初まふとす一ゆれ
 先身一人との上は徳有目の下へゆき初まふ
 実徳とけつとちひる一とす一とつとつと
 大事りなる忠長とをも海へとつとつと

○相導て前住す。いふとす入てあつては
 長下のちもあつてあつてと考一ゆ先元来人の上よ
 下のうとけつとちひつきまのう実の四前
 初まふけきと下へゆき初まふとす一ゆれ
 先身一人との上は徳有目の下へゆき初まふ
 実徳とけつとちひる一とす一とつとつと
 大事りなる忠長とをも海へとつとつと

忠長の良謀と盡して君が賢明と誇ひたる

と元来その性質美しき徳のありて志練の
 良よしぬりしりしをこすいひもことばひる
 礼儀におもむいへしるま

○徳が論—善と述すくひんを大事なる
 りしるその善徳と存問へ吹徳くくたふ
 ししはあはれなるこころのよきはる
 ひしく吹徳すこと徳のたふ事し人まよし
 にとくくはるしも黙するよりおのり—良下
 こもの美目もさう吹の行も形りゆかし
 しく自己の可なりつしりしるしるし

但—邦志の所身のうへに入吹徳す人を徳の
 源の世にまれりしも也何れそひりし
 男子の藝の文武のやうは務まり能はる
 しく他もまへししるしるしるしるし
 爵位のそのたかき安んどの樂—さる
 けしひりし山川の景像もははるしあり
 世態の苦も苦しし身も苦しし
 しくけられし詩と書はく歌連なりしる
 しく微賤の人の険阻艱難と経歴—真实の
 感慨より出たるしるしるしるしるしるし

手匠のあつるゝぬとの匠は推知一吹極もるゝ
 ぬゝゝゝゝゝ劍槍の術ゝゝゝ大扱貴人の名師
 貴人の氣力のう知りゝありてゝゝゝ中可貴
 どのゝゝゝも常貴健るゝ昇賤の人の目混位
 ねゝゝゝゝゝぬゝゝゝのれ色ゝ色又はひゝゝ
 吹徳もぬゝゝゝ海てゝゝゝ容顔英ゝゝ
 元段つき立流ゝ立止りゝゝゝゝゝ應對費明ゝ
 見えゝゝゝゝゝも是又ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 子身ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 て飲食ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

見すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 けゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 下ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 皆勤一つけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 一類しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 多ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ねゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 初ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 君徳と生れつきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 得來百年ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

何と云ひしや爵位の事を言ひしと踏らむは
必殺の事と云はれりやんやんは武の父母と
ありやんやんは事なる職なる遠祖先
史嗣く孝なるやんやんとし所を事終の事も
ワシ事なるやんやんは事なるやんやんは事なる
つ節は下武の事と云はれしやんやんは事なる
事なるやんやんは事なるやんやんは事なる
質朴の長は親と云はれしやんやんは事なる
倚頼の長と云はれしやんやんは事なる
の功業と失くぬやんやんは事なる

をと致し初と憐む孝悌の人と云はれし
の武と云はれしやんやんは事なる
かゆる一成功とはありやんやんは事なる
と一身の苦と云はれしやんやんは事なる
事なるやんやんは事なるやんやんは事なる
古先聖王の漢列は随ひやんやんは事なる
る事なるやんやんは事なるやんやんは事なる
と云はれしやんやんは事なるやんやんは事なる
やんやんは事なるやんやんは事なる
と云はれしやんやんは事なるやんやんは事なる

國は保ちぬふ事ありていさなり堅固なる人と
 りしもこの徳とりの秘すもいさなり一徳之
 士の徳はと成ちぬふ事ありて秘世界ひらく秘
 揚してもいさなり人地なりいさなりけさく
 秘ひさなりいさなり秘世なりいさなり秘入て
 千秋万歳現いぬすもいさなり存するもいさなり
 かんしし世後ともいさなりいさなりいさなり
 外は諸侯貴人のうよ英目とすもいさなりいさなり
 幸しくいさなり貴人のうよ和と快徳すもいさなり
 するれとのいさなりいさなりいさなりいさなり

教學

玉不磨不成器人不知道教といふ一へん
 聖主賢臣のありては學子又も速て人成る所
 とす天子の學子宮と辟雍といひ諸侯の學子
 成泮宮といふ行進も徳行道藝と教る所也
 との舊古なりて古聖主の身成修めんと治め
 る下も家と安定するひ一とと學ひて
 其修めんの友職とつけて其の成るなり下民
 を教へ守き保てるといふとむる級人といふこと
 形り九人の生徒ありとていふと古の及

級學ひてこれ思慮通融するといふこと
 自己の心とこれ空規りて人と取扱ふゆゑ
 たとへん此一とぬるて南なるものと作り
 婦人まゝ一形りて固るる物と作るるや一その
 人々の目をみたりとて以て作り出すこと
 定規といふものもさう其の所へ出某あり
 此身といふもの出来より次者よくと死扱つて
 下の心と心次者して善惡邪正といふを
 つきしんおられると成り出る時上るる級人といふ
 いふん扱とる一とて何れか造り次者と思案と

めつゝ〜そのよ〜と同合セ被合セたる耳
 同日切者ト申南産抄りのすゝもつはを
 ちん〜もあき〜法度いす〜ね役人か大工
 下民は材木のや〜す〜材あきた大工さ〜
 大工あきた材木さ〜い〜造作とす〜又
 す〜ね〜大工下〜材木あ〜
 似〜細工の子造と〜す〜た〜す〜ね
 大工材木三川抄屋〜あ〜おまの左〜人の
 貴〜より下民のいやさ〜す〜の口〜

す〜と古の聖王愛君と下玉家法治めり
 扱い〜ひ〜す〜のす〜ねと能をひ
 是〜い上〜大工とさ〜り周礼は師氏保氏
 さ〜の職の人〜三徳三行六藝六法等とさる
 法い〜く〜上〜大工と取さる法〜郷方州長
 すり〜下品〜の職分は拘の〜勅方〜を
 大要い人〜徳の五氣を成お〜け〜役目と
 民〜材木と木産よ〜り〜法〜古の聖王
 賢志氏と〜り〜ひ〜人秋の子〜さ〜
 く〜い〜ね〜海と〜〜あ〜ひ〜

て実爲るをるを之と式と画むと之を金銀
 兼辨とす此ありて一時の仇を之と報ひるふ
 此も又ある民の罪も之を多死を喜ぶ
 ぬひて是も吾死を喜ぶと自然上の刑戮
 よかりぬ爲るやとさういひふと下民も
 上の教ふた法を何人罪とさく然もさく生運
 然もさくさうさうと死を化の生法と爲さく
 白ひ事上の仁政を夫の思慮之人の画むと
 陰陽の氣の物と布とあく西風はそおの前
 たうとさうと源山大海の之画くよし竹木花草

あつさめく是を殺りて其をさるる良材哉と
 毛をたちて上は大三のすもねはなふ時人
 かん子のとももさすん易く造作も調ふ
 下民の材木とさくつる改い友争の友と徳りて
 曉諭の法を度くすうぬさくいさう下
 教を形れんと死を初め内より生しと人を
 愛する及と以て下死取極ひ曉諭の友四方
 死して生法を爲るをさう下より順位の民
 上と死す風を爲むと君子學道愛人小人
 學易後と孔子とさくさくさく

政の大體

政とすの事大體よりこれ名上の仁これ中恵よ
れこれ止りて廣大の徳に及ぶなりよ此所不先
天地とやんくもりよ徳春暖夏暑秋涼冬寒
の最たること山川東流の直とたぐはるまて
あそんかまらふよこもれ春の暖とほて種を
おろし夏の暑とほて揚と長し秋の涼とほて
実のり冬の寒とほて取收め畠山人麻麦を
うゑ水とる稻と植ておのれくもせ死とんく
衣食のやうと極へ出しそれと所よ是しは

食して生と色一なりよる所の運ち地
の直と遠のくぬきて人の徳とれたる
動と静のなりくんと生と通と
乃と生とくは成よんて運ち地の大徳とけ
形とくも今日自らの働あしてく
んぬあつてと拜と礼と一もさくうと
つ生とさくしるのされするもく
まるる大なる所よるなり人なるよる
下は成清教とて性命と生一と生と
と生とのぬく誰の恵もさく人く精とた

出せしつ生いら安くさるるく
かふ人なるの愚海とて
恵といふ人限有るなり一里とたれと
十中より十中より十中より五中より
あまぬくぬとのあて
我をうとと所とさくははく冷と施
つとくは孔子も君子恵而不費と作
る事也

○為政在於得人とあり
福の仁らあしをくしりて受て施し

れふきの後人未熟は此座より人慧徳の下に座
 へさしなる事々々此座仁を抱へて一人先ずめ
 後人と正直は仕り神めて此座よりめ後人と
 正直は仕り貪欲の心は抱へて一人此座より
 貪欲の心は抱へて一人此座と云々云々
 此座より庶和と云々云々此座と云々云々
 云々云々此座より此座と云々云々云々云々
 此座より此座の事云々云々此座と云々云々
 聖賢の事云々云々此座より此座の事云々云々
 此座と云々云々此座より此座の事云々云々

此座より孝悌忠信礼義廉恥の人と云々此座より
 此座より一人一人と云々此座より一人一人の選
 べて一人一人の所云々云々此座と云々云々
 此座より一人一人の耳目と云々一人一人の
 心と云々一人一人の事云々云々一人一人の
 心保孝悌忠信の人と云々一人一人の事云々
 一人一人の事云々一人一人の事云々一人一人の
 事云々一人一人の事云々一人一人の事云々
 一人一人の事云々一人一人の事云々一人一人の
 事云々一人一人の事云々一人一人の事云々

お持ち今日とて一困窮死はせしむるも
 自然とて………氏民哀微は……
 何人五人………人減一人の上より
 我上………家の種也………業………不後
 ……存立合一井の………各依はお成り
 貧民………教は仕………その有種………特の
 大田の爲………彼有遺兼此有滞穂伊寡婦之利……
 ……百姓ゆ………時………田刈………死を
 一把二把の取………刈………不………
 ……不れと拾ひ………あ………今日………

………とて………上より一井一合とせ……
 ……百姓………拾ひ………と
 盗人………と………お………弱
 窮困の民………死………お………
 ……大御………早………考………下
 ……相………お………死………
 ……困………と………お………
 ……と………今………
 ……不………死………
 ……通………
 ……
 ……
 ……
 ……

是れをぬるるをなす人かよつれをぬるるをぬるるに
一身の取也。むけり花より出ることもとては
うらみ己の衣食のぬるる後より入る肉體の民の
あり。貪欲なる無名人の上も相成るるの恵を
ヤルものよつれをなす人かよつれをぬるるに
政のかききより起るる風儀よつれをなす人か
この風儀とうけりてしん人かよつれをなす人
お成るるよつれをなす人かよつれをなす人

○人の善と美、悪と罪、捨るるを誰か
ん地よつれをぬるるよつれをぬるる然如可美善人の詳

可貴悪人いたるをぬるる何れをぬるるをぬるる
そく一人の仕合よ止るる對り他人よつれをぬるる
およつれをぬるるよつれをぬるる町村よつれをぬるる孝子
有るる時よつれをぬるる者の孝のよつれをぬるる
願るるよつれをぬるる店屋組のよつれをぬるる
生活よつれをぬるるよつれをぬるる紙素と費、其後
支配りよつれをぬるるよつれをぬるる其の上よつれをぬるる
そくをぬるるよつれをぬるるよつれをぬるる數遍をぬるる
吟詩をぬるるよつれをぬるるよつれをぬるる相成るる
身處とよつれをぬるるよつれをぬるる人の仕合よつれをぬるる

相成すべし左條に極の孝なりと見交りて其
人情自然と感服仕りし所は物入造作を厭ひ
不中しとて是れは但し右條の善人のまじりて
ふり出りてを指し上りの化ともうけし
ゆへ大概のくもし人先まうは打捨並くと
も多く有しゆへに不孝不忠不節とのし時
町村にも是れ厄介と成るものなり第一のくも
は出らぬといふ是れ組合の者まじり大にれるが
義ありしとて是れ物入造作は子万途慈まう後
を恐れしゆへ一日と申すし出りては是れ

因又その悪人の法度と把しし者も是れ人
より下りし出りては淨卷ともありしとて是れ
候之悪人の年々多きはその善人のたぬり有
しものどれも存知は風儀ありお成りしとて是れ
善人とし出りしその支記はたる者ともいふ
を交りては是れ善人も年々終りまうは
然りし善人も多きはそのし風儀も移り
可しとて是れ是れ扱まうは善人多くはし
不引淨意は是れ下りし時の財用も多
は費えりしとて是れ人にも有しとて善人へ

貴とあるは人の少々の儀とて貴と受
そのいふ姓は奴はいふ耕作とて姓は町人の
いふ高買と出精仕りと云ふ自然と上の
此物へと仕出へ換と云ふやうなる不届な
仕出へふやれ悪人とて何の何進もかゝるなり
かゝる奴を吟味しなればとてあていつくとも
根氣な奴とて筆紙書と費へたりたり程に
相違の仕置へ作りければ上への換分多き
れどもさうすは向隣の親類と好くともい
まう一人いそぎきりな形とるれば先も多うて人

二人とて月又玉中とて人々いふとも民をう
とるひやしてして割符の費い再び支度の時
各々くか居るの所通例の役人かん月ふや悪
人か出るも存ひを居とする若物へとする若
とていふぬ存ゆと浅やうとていふとて存ひはあ
茶店の小玉とて所は市三郎とて百姓存ひの
とのさうなつきとて持ち人の田地とて目水代作
りぬよや付ればそ御役人かの中か居るよ
持ちとて孝子作りぬよさ下は何んゆふ二万石の
ゆふ入も次費も減へてやうとてその存ひは

家を行末承くして一通を志にお受なれ保年々
 孝子へ作里取し中付りても拾年母年と小玉
 三万石の肉重しの減中万石何年是と本
 よん智ひ彼智ひりて田地と作り取しは下り
 屬うする孝子の五千も百も出りて家法の老受
 ひげしるくしが屬うは傳りてもさうく一人か感
 する福の孝のいんく福をぬものよ小且又十年
 廿年よん石をく上の妻成ともきつやれたと
 ひひき入の減すれとも市三郎の米ハ清玉の米
 日て外市三郎と見智ひ一郷一村として百姓たの

毎日一畝完余計耕しなり小玉中よ七の目く
 或三万畝の場し中より左なり五石十石の年々
 よ作り場し中より孫をさるりとも市三郎は持言
 少分よ七のせめて百名目と持在りて作り取を
 目立すなりし一八人ともうもさるり中より小玉と
 中後より一大臣の存意大號よかるひり屬う
 小玉存なり

農官の心得

曰く「至王堯舜天下が治るは五穀樹藝の
 成るが故に稷と名つけしを以て官を以て職掌するに因り
 らん。統の文公といふ賢君天子宜王が誅して民之
 大事在農といふ。至治民の政は先一農業にある
 と云ふ。凡有地牧民者務在四時
 と云ふ。一は奴有地牧民は國を治むるの
 務在四時と云ふ。夏秋を以てて農業を以てて
 居るは民とを治むるは益するは諸侯の責
 三は地人民の政事とありて地は地方より人民

と云ふ。士農工商の四民より政事を治むるは民と
 元極ふは方と云ふ。地産するは人民すはなれ
 國貧弱なり人民衆しを極むるは極むるは
 四民安堵するは民の井と云ふ。農
 民と云ふの根本は今の世も今も存
 代友と成て百姓と云ふ。分りて大切なる
 職掌と云ふ。初者一は民を以てて
 天子の事より下は匹夫匹婦の身地あるは
 人の性命と云ふ。衣食の源は百姓の
 衣食の源は百姓の勤よりいふ。眼の

志するも幸ゆ代友のいづつ々不権威代友ん
中して下より悪多の出来る時はと吟味して
仕置加ふる役とく有り存一百姓んをて市
ていまでと年貢未進と取立ると今日の存云
とねんん得たる人御ま一死して去りて後一死
下いといより及理とよれい無いより得ると
の義とな一死なかりて上下た忠死を討る
相とす一死んるくたおのきくく身の今
日故安樂はくくして一生んんんんんんんん
るより外は死んる死とのと然るゆゑよふた

立てこれ代目る身ゆ代友といふとのなまこれ
んく身勝手よれとねりゆきこたに立ゆつ時
上の為ととくくす人のよととく御りてす
とくねんんんより去てとてくくく身ひつ
代とたぬたりてす終らん不智を産とは出とて
手此刑戮とと抑らつるいこゑよ身ゆ代友是と
去法届き手人百人ゆりもちより相互よ立
ゆいさうゆい或い或い或い抑りまゐるゆ
指場と加へて百姓の事とゆりゆゆりよ農
業成すゆり属して衣食の源と文まゆ一性命

の根とかけしりし組一人情の智あると
要らざる仁愛はありて後をぬとのまられ先
身一は仁心とありて下成いしころるを法
とむるしよれ後人と循吏良吏といふありき
後人と酷吏賊吏といふ循良の吏の心直ふ欲し
法度とていはず不義非礼の指帰はそは意照
柔和と下と取扱ひ上の意といふんとて下成く
れいす下はほめきんとして上とありむりす
家必ゆくす衆の利害と案考して後目公執
る人といふ酷賊の後人の貪欲偏弊し法度と

ま事威勢とひてむらうき下初と加へ眼あ
の子扱とありて家必ゆくす衆の利害とて
是す立身出世とん想るとのとりふあり必に
循良の後人多きと君上の徳澤衆民よりこれ
いりて人々悦ばすありと世非ぬも福慶と
降きて家國富強安業すことと響の幸なり
下成く一酷賊の後人多きと君上忠忠愚直
下民は降おす危らるありむるありて世
非ぬと殃と降一必ず衰弊危亡ありて衆民
形はなふありとの二事とて一毎へありて

職分より名に於てより人な忠良の臣と稱して
家國の玉寶とすべしと明孝子

三十五

嚶鳴館遺草卷第二

愛 知 県



1103183277